

「港南台地区センターまつり」

2017年02月28日

横浜市港南区港南台は、50年くらい前に、日本住宅公団が山林を切り開いて開発した新興住宅地で、サラリーマンのベッドタウンである。「港南台地区センター」という、図書室、集会室、バスケットができるくらいの体育館などを併設する建物がある。地域の人々の習い事をはじめ、交流の場となっている。「港南台九条の会」も集会室を利用している。最近、「九条の会」は政治的な団体だから、公的な場から排除されるケースがあるというニュースを聞くが、私たちの「会」は幸い好意的に受け止められている。

ここで毎年、「港南台地区センターまつり」が催されている。絵画、書、木工、刺繍、生け花などの展示コーナーがあり、コーラス、ダンスなど、日頃の練習成果をステージで披露している。子どもコーナー、レストラン、模擬店も並ぶ。地域住民たちが年に一度、楽しむ「まつり」である。3千人くらいが来ていると聞く。

「港南台九条の会」も毎年参加している。1年間の活動の成果を発表する場なので、私たちの「会」は場違いな感じもするが、工夫を凝らしてきた。過去には、メンバーが詠んだ平和川柳を色紙に書いて展示したり、パッチワークで九条の条文を作ったものを掲げ、九条に関する本を並べたこともあった。また、会員自身の体験から平和について話したことを「平和へのバトン」という冊子にまとめている。1冊子で10人分を載せて、300部ほどを、第3集まで出している。「平和のバトン」は好評なため、「まつり」に来た人に差し上げて、平和を訴えている。

今年は、一枚の色紙で折る「福山ローズ」を取り入れ、バラの花を飾り、平和のメッセージを書き加え、アピールした。折り方が複雑だが、多くの協力者を得て、下の写真のように650個のバラを綺麗に飾ることができた。欲しい人のために、別に300個を用意して、お土産としてお渡しした。九条問題は難しく扱われがちだが、美しいバラを通して、平和への関心を呼び起こしたいという企画をした訳である。

私は「九条の会」の発足当時から、世話人として参加している。牧師が加わっていることを、時に不思議がられることがある。確かに、集会やデモに参加している牧師は少ないように思う。私はいつも「キリスト教は人権を守り、平和を目指す宗教です」と言っている。主イエスの十字架と復活は「赦し」であり、生きることを「よし」とした「生の絶対的是認」の福音である。互いに生きることを認め合い、人権を尊重する。人権を否定する戦争に反対し、平和を求めることはクリスチャンの基本的な信仰と証しである。「九条の会」は色々な考え、立場の人々が集まっているが、「共に生きよ」と言ってくれる主イエスの福音を他の人々と分かち合う信仰に基づいて私は活動をしている。平和が危うくなっている今、「平和へのバトン」を受け継ぐことが大切ではないか。

